こうさつこそ地獄落ーのかるあこに猫の髪入めくく岩之銀先
八銀先よおのが尾尾の毛刀はくくこれ廿日外に
此銀屋番つひろくよぐくこそいかいと思う甲やの西屋番
物くぐらせ人ようお雪もなく
をどく銭けー命をたすけー
清つぎお猫だんてるおのコレ小牧なん足もくおらつくなのむ
こころハなんう今時ふハ猫の歯ようつる事をもひて
コレ君よどつぐやくと小びをちぢめ
のぐーくよれぞ姫ハ湖よくてれるいの首の絵ありもひ
顔うあけて落ふるせたよくはやくくつくさせるがたのこと
たべ私の山こ三津の川ようおまくこの男よ方へあて
ひなつよがんをうひとの眼石見子志ぬとひやうはやふ心をつくて

もあり恋ひ恋ちんぢうえるうれが女のいちなくバ銀先
清つも男はぐをれでいとうぬをの
こんおくぜんとんがしいぐてなうとあまれるおまき嵐
待てうせろと思ふるおまき嵐
屋へよるる二銀ハ小春のそくくよ山ありし
まこまのすき宮そる風あをくよ井元ぐさ
るの川る当ん末のまるも宮し山持佛寺の経のあうをかよきこ
ゆる夕ぐれぐ雁をよのもよこくくよ山ありあ
なをちんぼり姫ぐせ乃湖よ神もぬま嵐一間の方を私なあ
ひうくん八しいなさけ与ひの銀先南なせ一下おもひこうしハ
せぬぞコレせめて山飛ぶとけるなくかいう男の死記が尺く死
たへ先は飛ぶてのふ能智へ
日光のそーま大谷まコレぐで此場とはらせてとほるくく